

小名浜三小 学校だより

No.14

平成29年11月8日

校長 岡 亮



全国学力・学習状況調査の結果について

4月に6年生を対象に全国学力・学習状況調査を実施しました。本校では、学校と家庭が一体となって学力向上を目指すということと、保護者の皆さんに説明責任を果たすという観点から、調査の結果と今後の取り組みについてお知らせします。

調査の結果から見えるのは、学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面ですが、今後の指導に生かす上で重要な資料です。本校では、今回の結果の概要と、それをもとにした改善方策を示すことで、家庭と連携した取り組みを進めていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

【調査の目的】(参考)

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査結果の活用】(参考)

学校においては、調査結果を踏まえ、各児童の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組む。

<調査結果の概要>

【国語A (主として「知識」に関する問題)】

- 全体、全領域で、全国・県・市の平均を大きく上回りました。
- 漢字の読み・書きはよくできていますが、「対象」と書く問題は半数近くが誤りました。無解答率は全体的に低く良好ですが、「置く」と書く問題は無解答が目立ちました。
- 俳句の情景をとらえる問題で誤った子が多くいました。中学年の内容なので、韻文の鑑賞についてのしっかりとした指導が必要でした。

【国語B (主として「活用」に関する問題)】

- 全体として全国・県・市の平均とほぼ同じでした。領域別に見ると、「読むこと」が大きく上回り、「書くこと」がやや下回っています。
- 目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話すことを選択問題、登場人物の関係や心情などをとらえる選択問題は非常によくできていました。
- 場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことの記事問題が難しかったようですが、無解答がゼロだったのは立派です。
- 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図をとらえる問題(選択)の正解率が、非常に低かったです。2問とも当たらないと不正解になる面はありますが、難しくはありません。「どこからそう思うの」という発言は「どこから」と聞いているので“根拠”を尋ねていると分かるはずですが、選択肢の「考えのもととなる文章中の表現を明らかにしようとしている」が選ばせませんでした。

【算数A (主として「知識」に関する問題)】

- 全体は全国平均を大きく上回り、県・市平均も上回っています。どの領域も平均を上回っています。
- 「 $5 \div 9$ 」の商を分数で表す問題が全国・県平均を大きく下回りました。答えは、単純に「 $5/9$ 」なのですが、「 $9/5$ 」と逆にしたり、「 $5 \div 9$ 」の小数の商「 $0.5555\cdots$ (循環小数)」を分数で表そうとしたりした子が見られました(循環小数は中3の内容)。
- cmやkgを「普遍単位」といい、「積み木何個分」とか「プリンカップ何杯分」のようなものを「任意単位」といいます。1年生の内容ですが、その任意単位を用いる問題で、平均は上回ったものの、かなりの子が誤りました。

【算数B（主として「活用」に関する問題）】

- 全体で、全国・県・市平均を下回りました。領域別でも「量と測定」以外は下回っています。
- 月の大きさは変わらないのですが、地球との距離の関係で、大きく見える時と小さく見えるときがあります。「最大に見える満月の直径は、最小のときの満月の14%長い」ということをもとにして考える問題が特によくありませんでした。最小の満月を1円玉（直径20mm）としたとき、最大の満月は、100円玉(22.6mm)か500円玉(26.5mm)かを、理由を含めて説明する問題でした。いくつかのステップで解くことを、段取りよく説明する経験を積ませていく必要があります。
- 郵便料金など日常生活にある情報、実験などで得られたデータの処理などに戸惑うようです。算数の“生活化”によりいっそう取り組む必要があります。

【質問紙調査】

◇「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が90%を上回った主なもの

「毎朝朝食を食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」「ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある」「友だちと話し合うとき友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」「家で、学校の宿題をしている」「学校で、友だちに会うのは楽しいと思う」「学校で好きな授業がある」「学校のきまりを守っている」「友だちとの約束を守っている」「国語・算数の勉強は大切だと思う」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」*1

◇「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」が60%を下回った主なもの

「友だちの前で自分の考えや意見を発表するのは得意だ」「家で、学校の授業の予習をしている」「話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりしている」「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」「新聞を読んでいる」「将来外国へ留学したり国際的な仕事に就いたりしてみたい」「算数Bの解答時間は十分だった」

◇ 生活習慣等の質問から

- ・ 平均以下ですが、平日1日当たりにテレビ・ビデオ等を3時間以上視聴する子、同じくゲームを3時間以上する子がいます。データはありませんが両方3時間超えの子もいる可能性があります。
 - ・ 過半数が平日1時間以上勉強していますが、休日には勉強しない傾向があります。
 - ・ 平日1時間以上読書する子は全国・県を下回り、「0～10分」も上回っています。*2
- *1 9割超がいじめに否定的であることは好ましいですが、「どちらかと言えば」の割合が全国や県よりも多くなっていることや、一部とは言えいじめに肯定的な子がいることは課題です。
- *2 本に親しませる、読書活動の工夫がさらに必要です。

【まとめと今後の取り組み】

- 全体的に国語や言語に関わることに對して受け身的な傾向があります。教師や友だちの話はよく聞いているようでも、理解までに至っているのが課題ととらえています。わかりやすく説明したり、書いたりする経験を積み重ねる必要があります。言語活動の中核を担う国語科の授業を改善するとともに、他の教科や特別活動（学級活動、児童会、行事）、道徳、総合的な学習で、より実際的な言語活動を取り入れる必要があります。
- 学校図書館や学校司書(水～金勤務)の活用をさらに進め、文字や本に親しむとともに、本の世界に浸る経験や、インターネットではなく書物で調べる経験を増やす必要があります。
- 国語と算数とも、AとBに差が見られることから、これまで以上に実感を伴った理解、思考・判断し、表現する機会を増やす必要があります。
- やり方を身につけさせる“習得型”の授業も大事、何か課題に向けて習得したことを駆使して解決していく授業も大事と考えます。
- 1日当たりのテレビ等の視聴とゲーム等の使用の時間の合計（いわゆる“メディア”に触れている時間）が、平均で3～5時間となる可能性があります（今回の調査では「平均」は算出できません）。国際的なことも含めて、家族で語らいの場を増やしていただけるとありがたいです。